

令和3年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立川口特別支援学校)

*学校関係者 評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえ評価を受けた日とする。

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者とともに、児童生徒の力を伸ばす学校 ・人生をより豊かに生きる力を育む学校 ・保護者や地域から信頼される、安心安全な学校
--------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校関係者	10名
生徒	1名
事務局 (教職員)	10名

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒の発達と障害特性、生活年齢及び将来像を見据えた授業づくりとキャリア教育を進め、教育課程の充実を図る。 2 家庭・地域・専門家・福祉関係者との連携を密にして日々の指導・校内支援の充実を図るとともに、センター的機能を充実させながら、校外支援を進める。 3 緊急時・災害時に備えるとともに、感染症予防対策を十分にを行い、安心安全な学校づくりを進める。 4 「一人一人を大切にす学校づくり宣言」に基づき、人として生きる権利、幸福を追求する権利を大切に、一人一人の人権を尊重した教育活動を進める。
------	--

学校の自己評価

番号	現状と課題	年度目標	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	年度評価 (令和4年1月20日現在)		
						評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	発達・障害特性・生活年齢と将来像を見据えた授業づくりを進めている。カリキュラムマネジメントを踏まえ、授業担当者、学部ブロックの話し合いを丁寧に進めるとともに、学部ブロック研修や年次研修該当者の研究授業と研究協議を通し、日々の授業づくりと指導内容を充実させている。将来像を見据え、一貫した指導が進められるよう、昨年度に様式を見直した「個別の指導計画」に基づき、一人一人に応じた指導と授業づくりが行われている。生活年齢を踏まえて各学部ブロックで進めているキャリア教育を、「キャリア発達段階表」や小中学部校としての「進路指導計画」を踏まえて整理し、充実させる。	児童生徒の一人一人の発達・障害特性・生活年齢と将来像を見据えた授業づくり・キャリア教育を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマネジメントを踏まえ、日常的な教職員の話し合いと共通理解を大切にするとともに、年間を通して計画的に学部ブロック研修を実施する。年次研修を中心とした授業研究を行う。 ・研修等を通して児童生徒の将来像についての共通理解を深め、「進路指導計画」「キャリア発達段階表」を参考にし、日々の授業の充実を図られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な教職員の話し合いと授業研究等を行い、「個別の指導計画」に基づく一人一人の発達・障害特性・生活年齢を踏まえた授業づくりと指導・支援の充実が図られたか。 ・児童生徒の将来像についての共通理解を深め、キャリア教育の観点から日々の授業の充実が図られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級・学年等の教職員が丁寧に話し合うとともに、年次研修該当者の研究授業と研究協議を計21回実施し、日々の授業を充実させた。 ・各学部ブロックで「進路指導計画」「キャリア発達段階表」の話し合いを実施し、児童生徒の将来像を見据え、小中学部校としてライフキャリアの視点から授業改善を行った。小低は日常生活の指導、小高は給食室と連携した「おしごと学習」や「係活動」、中学部は作業学習と頒布活動、代表委員会活動等に積極的に取り組んだ。全学部で保護者向け進路アンケートを実施し、その内容を学部ごとに共有し指導に活かした。 ・感染症対策を十分に講じ、ICT活用も含めて様々な工夫をし、日々の授業や学校行事等を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員間の日々の話し合いを大切にするとともにカリキュラムマネジメントを機能させ、授業改善を行う。 ・学部ブロック研修を充実させ、一人一人のニーズに応じた指導・支援を行う。 	
	「学校教育目標」「目指す学校像」「学部教育目標」等を改訂した。研修・教育課程部、教育課程検討委員会を中心に教職員間での話し合いを進め、各学部ブロックで日課表、学習集団、指導内容・方法、行事等の見直しを行った。「学習指導要領」「埼玉県特別支援学校教育課程編成要領」についての全校研修を行うとともに、年間指導計画の各教科のねらいを「資質・能力の三つの柱」に基づいて整理し、指導内容の充実を図っている。改訂した日課表に基づき教育実践を進め、検証とさらなる改善を図る。	学習指導要領と改訂した教育課程に基づき教育実践を進め、検証と充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部の研修・教育課程部、教育課程検討委員会を中心に、学部会、学部研修を通し、「学校教育目標」「学部目標」「時期の特徴と大切にすること」等を踏まえ、全校研修テーマに基づき、ねらい、つきたい力、指導内容及び年間計画等について検討する。 ・教育課程検討委員会にて調整と検討を行い、「教育課程まとめの会」と「実践報告集」により、全教職員での共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・改訂した教育課程に基づき、教育実践を進めるとともに、検証を行い、小中学部校としての教育課程の充実が図られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部に残り、中学部は年間指導計画の各教科・領域のねらいを「資質・能力の三つの柱」に基づいて整理し、指導内容を充実させた。 ・「本校におけるカリキュラムマネジメント」を踏まえ、昨年度見直した教育課程の実践と検証を実施した。学部ブロックが教育課程反省、実践報告会等を実施するとともに、校長の「来年度の教育課程編成に向けて」に基づく検討を行い、研修・教育課程部、教育課程検討委員会を中心に、小中学部校としての一貫性のある教育課程づくりを進めた。 ・見直した教育課程と学習指導要領を踏まえた学部ブロック研修を実施し、教育課程まとめの会でその内容を共有し、教育活動を改善させた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領を踏まえ、小中学部校としての一貫性ある教育課程をさらに充実させる必要性がある。 	
2	学級担任を中心に保護者との共通理解を丁寧に進めるとともに、学校評価アンケート等を参考にし、日々の指導の充実をさせている。校内委員会を定期的に実施し、特別な支援が必要な児童生徒についての共通理解を図り、保護者、関係者、関係諸機関及び外部講師と連携して、必要な対策を講じている。小中学部校になることを踏まえ、校内支援の体制整備を行った。保護者との共通理解を図りながら、チームとしての支援を進める。	保護者、関係者、関係諸機関と連携し、日々の指導及び校内支援の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との共通理解を進めるとともに、外部講師、関係諸機関と連携し、児童生徒理解を深めて指導を行う。 ・学部コーディネーターを位置付けるなど校内組織を確立させるとともに、校内委員会を5回実施し、指導・支援について共通理解を深める。関係諸機関と連携し、支援会議を行い、指導・支援の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との共通理解を深め、児童生徒の指導・支援の充実が図られたか。 ・外部講師、関係諸機関と連携し、児童生徒理解を深めて、日々の授業や指導の充実が図られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育相談組織図」を作成、校内の教育相談の流れを整理した。支援部内の係として学部コーディネーターを位置づけた。また、個別ケースで日常的に、管理職、関係者で情報共有し、必要な対策を講じた。校内委員会を行い、支援や対応について共通理解を図り、必要に応じて外部関係機関を含めた支援会議を実施した。 ・校内支援として学習支援 (外部講師等活用事業による教員への指導支援) 116件、支援会議18回を実施した。(12月末現在) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者及び関係諸機関との連携を強化し、組織的な児童生徒支援を進める。 	
	特別支援教育コーディネーターを中心に、川口市及び蕨市内の小・中・高等学校への教育相談、研修支援を行っている。小中学部校になることを踏まえ、体制整備を行い、センター的機能を充実させる。	センター的機能を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・関係諸機関、近隣の特別支援学校と連携し、研修支援、教育相談、地域ネットワークづくりを進める。川口・蕨地区の特別支援教育コーディネーターと協議し、研修計画を立案する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係諸機関と連携し、川口・蕨地区の特別支援教育の連携体制を充実させ、センター的機能を発揮できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外の地域支援は、特別支援教育コーディネーターを中心に巡回相談や電話、オンライン等で教育相談を行い (緊急宣言やまん延防止措置時には巡回相談を中止)、川口市、蕨市の小・中学校から相談を受けることができた。(対応件数197件) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員の理解と協力体制を確立させ、センター的機能を充実させる。 	
3	日常的な校内巡回、毎月の「安全点検票」により、不良箇所の目視確認や修繕を迅速に行った。事故報告やヒヤリハット報告を随時行い、全教職員で共有した。個別の事例については、学部会等で対策を話し合い、再発防止の徹底を図った。「調理実習・飲食計画」の書式と手続きを改め、アレルギー対策と感染症予防対策を徹底した。全教職員で校内消毒を行っている。	感染症対策と事故防止を徹底し、安心安全な学校づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な消毒作業、児童生徒の健康管理、学習内容・方法等の工夫により、感染症予防を徹底し、安心安全に向けた教育環境整備を行う。アレルギー対策委員会を中心に組織的に対応する。 ・危険事例等の情報を教職員間で共有するとともに、発生した事故については丁寧に分析し、再発を防止する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険事例や事故について全教職員で共有するとともに、日常的に安心安全のための教育環境整備が行えたか。 ・感染症クラスター及び児童生徒の重大事故を起こさないことを徹底し、0 (ゼロ) にできたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内巡回、毎月の安全点検により、目視確認と修繕 ・改修を行った。緊急時対応研修を行うとともに、ヒヤリハット報告を随時実施し、指導体制やアレルギー対策について教職員間で徹底した。 ・コロナ対策を徹底した指導を行った。クラスターや重大事故の発生を防いだ。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に起きてしまった事故の初期対応、個別の事例検証と教職員間の共有を徹底し、事故防止を図る。 	
	災害対策委員会を2回実施し、小中学部単独で実際の災害時の対応を想定した引き渡し訓練を実施した。コロナ対策も含めた、備蓄品の点検整備を行った。児童生徒の防災学習を充実させる。	緊急時・災害時対策を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の防災意識を高め、避難訓練等を行う。 ・保護者と連携し、防災学習や避難訓練、引き渡し訓練を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健・安全部及び災害対策委員会を中心に、災害対策の充実を図ることができたか。 ・実践的な防災学習が行えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対策委員会を定期的に実施し、備蓄品の整備と新規購入、災害時用の服薬管理、児童生徒用緊急避難袋の検討等を行った。 ・コロナ対策をした上で避難訓練等を円滑に実施した。訓練前に全学級で防災学習を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA と連携した災害対策と実践的な訓練の在り方について検討する。 	
4	「一人一人を大切にす学校づくり宣言」を改訂した。学部ブロックで、人権を大切にす指導のあり方について、事例検討を行い、その内容を全教職員で共有した。教職員の人権に対する意識を高め、日々の指導に活かすとともに、発達と障害特性、生活年齢を踏まえ、人権尊重と合理的配慮を基本にし、教職員の共通理解とチームワークを大切にす教育活動を進める。	人権尊重に関する教職員の意識を高め、日々の教育活動に活かす。	<ul style="list-style-type: none"> ・「一人一人を大切にす学校づくり宣言」の内容を職員会議で共通理解を図るとともに、人権や合理的配慮、生活年齢や障害特性に応じた指導のあり方について、外部講師を招き、全校研修を行う。 ・学部ブロック研修で日々の指導を振り返り、児童生徒や保護者との信頼関係、共通理解を大切にす指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を通して、教職員一人一人が人権や合理的配慮、障害特性等について理解を深め、体罰・虐待のない指導が徹底できたか。 ・学部ブロック、学級等の単位で日々の教育実践を振り返り、人権尊重の意識づくりと適切な教育活動の具体化を図ることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の職員会議で「宣言」の内容を確認するとともに、職員会議の校長指示・連絡を通して、一人一人を大切にす指導の徹底を図った。企画委員会主催研修 (9月) の他、支援部主催で障害特性に応じた指導の研修 (5月、8月) を実施した。 ・11月に学部ブロック単位で研修を行い、日々の指導を振り返るとともに、その内容を職員会議で共有し、日々の指導に活かした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・研修や日々の振り返りを大切にするとともに、教職員間のチームワーク力を高め、日々の教育活動に徹底させる。 	

学校関係者評価	
実施日 令和4年2月4日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・生活年齢と将来像の視点を重視し、各学部が教育実践を進めている。その視点はとても大切。生活年齢と発達とのギャップをどうとらえるのか、教職員集団がそのことを理解し、今後の見通しを持っていく必要がある。将来像は、押し付けるものではなく、本人のねがいを重視し、本人、家族、教員がすり合わせていくこと、そのために何が必要かを教職員集団で一致させていくことが大切である。 ・高等部が分離独立したことによって、進路指導にどのような影響があるのか、地域との関係ではどうなのか、このことを丁寧に分析し、整理してほしい。今後どのような学校にしていくのかを考える大切な視点である。 ・高等部の分離独立及び児童生徒増による学校の過密状況という困難の中、教育実践を充実させている。大変な1年であったと思われるが学校としてできることは何か、何から優先していくのか、そのことを明確にして取り組みを進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の対応はもとより、連絡帳や「おたより」、電話連絡等が丁寧にされ、保護者との共通理解が図られている。引き続き大切にしてほしい。その一方でコロナの下での制限もあり、情報発信が少なく感じている保護者もいるので工夫してほしい。 ・保護者の一番の不安は、将来について、目の前の我が子について、皆との違いについて等々の「わからなさ」。その不安に寄り添い、一緒に考えながら対応していく必要がある。その際、集団的な対応が大切であり、教職員集団としての専門性を高めてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・「リスクマネジメント」と「危機管理」の概念の整理が必要。その際、一番条件の悪いことを想定して考えていくことが大切である。 ・手指消毒、マスク指導、校内消毒などを始めとした感染症対策に引き続き取り組み、教育活動を充実させてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員間、関係諸機関との共通理解や連携を図る際、個人情報をどう取り扱うのか、どのように情報管理するのか、教職員間で徹底させる必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な困難はあるが、中でも教職員間の人間関係を大切に、一致団結して取り組んでいく必要がある。 ・合理的配慮を進め、一人一人を大切にす指導を徹底する際、教職員間での認識の一致と共通理解が大切。保護者と教職員間の共通理解も同様である。 	